

「動物衛生学」正誤表

掲載箇所	誤	正																
xvii (前付) 最終行	山中典子 農研機構動物衛生研究	山中典子 農研機構動物衛生研究部門																
5頁 11行目	集団食中毒事件 (2003年・近畿地方),	集団食中毒事件 (2000年・近畿地方),																
34頁 下から 17行目	れ 29種がある (表 2-6).	れている (表 2-6).																
35頁 表 2-6	項目の追加	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病名</th> <th>家畜伝染性疾病*</th> <th>人獣共通感染症</th> <th>対象家畜</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>牛肺疫</td> <td>法</td> <td></td> <td>牛, 水牛, しか</td> </tr> <tr> <td>鼻疽</td> <td>法</td> <td>○</td> <td>馬</td> </tr> <tr> <td>出血性敗血症</td> <td>法</td> <td></td> <td>牛, めん羊, 山羊, 豚, 水牛, しか, いのしし</td> </tr> </tbody> </table>	病名	家畜伝染性疾病*	人獣共通感染症	対象家畜	牛肺疫	法		牛, 水牛, しか	鼻疽	法	○	馬	出血性敗血症	法		牛, めん羊, 山羊, 豚, 水牛, しか, いのしし
病名	家畜伝染性疾病*	人獣共通感染症	対象家畜															
牛肺疫	法		牛, 水牛, しか															
鼻疽	法	○	馬															
出血性敗血症	法		牛, めん羊, 山羊, 豚, 水牛, しか, いのしし															
同上の「小反芻獣疫」の項	届	法																
51頁 下から 14行目	狂犬病: ……表 1-5に国内における人と犬の 狂犬病の発生状況を示した .	赤字部分削除																
54頁 表 3-1「疾病名」2段目	リフトバレー熱 (海外)	リフトバレー熱 (海外) (人獣)																
71頁 下から 5行目	症状 (臨床書状・病理),	症状 (臨床 症状 ・病理),																
78頁 表 3-9「原因」6段目	<i>Arcanobacterium pyogenes</i>	<i>Trueperella pyogenes</i>																
148頁 14行目																		
79頁 表 3-9「予防」最終段	抗生物質の経口投与	削除 → 空欄																
81頁 表 3-10「予防」2段目	衛生管理	衛生管理 生ワクチン																
119頁 表 4-5「生ワクチン」「不活化ワクチン」の「特徴」3行目	・必要 摂取 量:	・必要 接種 量:																
137頁~ 142頁 3行目まで	水色の帯 : コア・カリキュラムの必須項目に該当	グレーの帯 : アドバンスに該当																
156頁 9行目	日本には 9 属 99 種が記録されている.	日本には 9 属 100 種が記録されている.																
158頁 表 6-4「忌避剤」の「有効成分」の項	…, ナフタリン, 樟脳	…, ナフタリン, 樟脳, イカリジン																
同上の「誘引剤」の「有効成分」の項	性ホルモン , 集合 ホルモン	性フェロモン , 集合 フェロモン																
159頁 4行目	アセチルグルコサミンの 成績 を阻害する.	アセチルグルコサミンの 生成 を阻害する.																
159頁 14行目	抗凝 菌 性 (累積) 殺鼠剤:	抗凝 血 性 (累積) 殺鼠剤:																
159頁 19行目	MGK-11, MGK-326 などがあり,	MGK-11, MGK-326, イカリジン などがあり,																
159頁 下から 13行目	昆虫の性 ホルモン や集合 ホルモン を	昆虫の性 フェロモン や集合 フェロモン を																
159頁 下から 6行目	徐 法 剤, 食餌剤 (ベイト剤) などがある.	徐 放 剤, 食餌剤 (ベイト剤) などがある.																
195頁 下から 17行目	システム の導入が 義務づけられ ,	システム の導入が 組み込まれ (2018年の改正で義務化) ,																
213頁 13行目	る (体重 500kgの牛であれば 6,000 ppb ,	る (体重 500kgの牛であれば 6,000 µg となり,																
216頁 表 8-5「トリコテセン」および「ゼアラレノン」の「産生カビ」の項	<i>Fusarium graminearum</i>	<i>Fusarium graminearum</i>																
218頁「b. 銅」の 3行目	ラジカル発生により肝障害で	ラジカル発生による肝障害で																
225頁 キーワード	公害対策基本法	環境基本法																
226頁 下から 2行目	「 公害対策基本法 」(昭和 42 年法律第 132 号)である.	「 環境基本法 」(平成 5 年法律第 91 号)である.																
271頁 図 10-31 のキャプション 2行目	例: ミネソタ変法 (9頭ダブルの片側の場合)	例: ミネソタ変法 (12頭ダブルの片側の場合)																
297頁 下から 7行目	は 指定されていないが , 本菌は STのH抗原第2相が欠失した単相変異株 であるとされ,	指定され,																
309頁 「(1)飼養状況」の 2行目	一方, 2017年 の 1戸当たり	一方, 2016年 の 1戸当たり																
同 4行目	2017年 の肉用	2016年 の肉用																
309頁 図 10-74 上のグラフ	1戸当たりの羽数 (千羽)	1戸当たりの羽数																
310頁 図 10-77 上のグラフ	1戸当たりの羽数 (千羽)	1戸当たりの羽数																
315頁 5行目~ 8行目	鶏のパラチフス	サルモネラ症																
369頁 16行目	動物と 接した 後の手洗いと	動物と 接する前後 の手洗いと																
372頁 16行目~ 17行目	振興 感染症	新興 感染症																
376頁 下から 2行目	クリプトスポロジウム病に対する	クリプトスポリジウム病に対する																
401頁 第 3章の 5行目	地方病性 白 血病 (EBL) には	地方病性 牛 白血病 (EBL) には																
408頁 第 3章の 4行目	地方病性 白 血病は	地方病性 牛 白血病は																